

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校

校長
酢谷昌義



靴はきちんと整頓されていました

今日は「世界ハロデー」

インターネットで調べると、毎日が何かの記念日になっているのが分かります。よく知っているものもありますが、初めて聞くものの方がはるかにたくさんあります。

そんな中で、今日は「世界ハロデー」という聞き慣れない記念日になっています。これは、1973年の秋、エジプトとイスラエルが紛争の危機(第四次中東戦争)になったことをきっかけに制定されました。10人の人にあいさつをすることで、世界の指導

者たちに「紛争よりも対話を」とのメッセージを伝えるという日になっています。ずいぶん前から制定されていたにもかかわらず、こういう日があることを私は知りませんでした。と、とても意味のある日だと感じています。

10人にあいさつをするだけで人の気持ちが変わるのかと聞かれると、それは何とも言えません。たかが10人といえども、意識的にしなければできない人数です。学校へ来ているときは、毎日子ども達や先生方とあいさつをします。しかしこの休みの間、私は10人とあいさつをした日がなかったように思います。

そう考えると、あいさつに意識的に取り組むことで、自分の気持ちを切り替えることができるのではないかと思います。

れてきます。毎朝子ども達を出迎えていて、元気の良いあいさつを聞くだけで気持ち良くなれるのですから、あいさつにはとても大きな力があると思います。

あいさつについては今まで何度となく触れていますが、なかなか身につけるのは難しいものです。しかもその大切さは、学校にいるときよりも社会に出てからの方が身にしみて良く分かるものなのです。だからこそ今のうちに気持ちの良いあいさつを身につければ、どんなに素晴らしいだろうと思います。

世界の指導者でなくても、誰もがあいさつの気持ち良さ・素晴らしさを知り、実行できるようにになれば、きっと世の中が変わっていくのではないかと思います。



今朝の「朝読書」の様子

元気に登校：子ども達

今日からいつもの学校生活に戻りました。まだ全員がそろっているわけではありませんが、にぎやかな子ども達の声がかえってきました。

学習発表会に向けた練習にも、これからますます力が入っていくように思います。

健康管理には十分に気をつけ、一日一日を大切に、またみんなで頑張っていきたいと思います。



校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校校長
酢谷昌義

バスに乗り緊急下校の練習

地震想定「避難訓練」実施

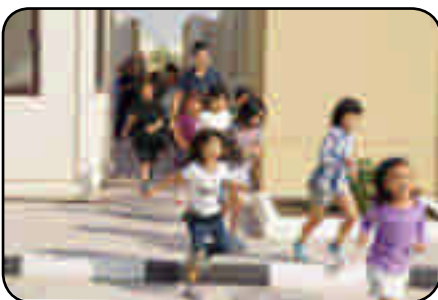
今年度2回目の避難訓練を実施しました。今回は地震を想定して行いました。

国内でも、避難訓練は学期に1回は行うようになっていきます。それと同じことに、ドーハ日本人学校でもいろいろな場面を想定して取り組んでいます。

この国では地震が起きることはないと思いますが、いつ・どこで・何が起こるか分からないものです。自分の安全は自分で守ることができるようにするために、訓練は非常に大切なものだと思います。

地震というと、私には忘れられない思い出があります。

「鳥取県西部地震」が起きた平成12年10月6日の午後1時半過ぎのことです。私が勤務していた島根県の学校は震源からずいぶん離れていましたが、それでもかなりの揺れを感じました。ちょうど昼休みで、子ども達は思い思いの場所で遊んでいました。揺れを感じてすぐに、私は校内放送のためにマイクに向かい



全員が素早く避難してきました

ましたが放送できませんでした。揺れがおさまり先生方で手分けをして、避難指示のために校舎内を回りましたが、ほとんどの子ども達は自分から避難のための行動を起こすことができずにいました。教室にいた子で、机の下に潜り込んだものはいませんでした。体育館では中央に、校舎外ではできるだけ校舎から離れるというようなこともできずにいました。結局は先生方の指示でやっと校庭中央に全員が避難できたのです。

そのときの子ども達が、安全に対して特に無頓着だったわけではないと思います。実際に何か非常事態に出会うと、なかなか自分からは動けないことの現れだと思います。だからこそ訓練が必要なのだと、そのとき強く感じたことを今でも良く覚えています。

訓練の大切さを私達指導者がしっかりと意識し、そのことを訓練の時だけでなくいろいろな場面で子ども達に伝えていかなければならないのだ



避難場所で指示を聞いています

と思います。

ドーハ日本人学校の子供達は、真剣に訓練にのぞむことができます。当然のことですが、訓練だからこそ真剣に取り組まなければなりません。特別に時間をとって訓練する場面は限られていますが、自分で自分の安全を守ることができるように、その都度しっかりと働きかけていきたいと思っています。



バスの安全についての話し合い

スクールバスについて

スクールバスの配車計画について、変更した方がよりスムーズになると思われる部分が出てきています。そのため、明日から部分的に変更を加えて運行をしてみたいと思います。

バスが替わったり、時間が大きく変わったりするご家庭には個別に連絡させていただきます。配車時間が多少前後することが出てくるとは思いますが、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校校長
酢谷昌義

3年生以下の音楽練習の様子

元気の良い発表を目指して

今週に入り、徐々に学習発表会の練習にも力が入ってきました。休み時間にも練習の音が聞こえてくることもあります。どの学年も、一生懸命取り組んでいるのがとても良く伝わってきます。

人前での発表をする時に、私がいつも思うのは「元気の良い発表」をしてほしいということです。小規模少人数であるからこそ、この「元気」は何よりも大切なものだと思います。私が大切だと考えている5つの気「元気・やる気・根気・本気・勇気」の中で、すべての基本になるものだとも思っています。

その「元気」を何で判断するかというと、最もわかりやすいのは「声の大きさ」です。大きな声で発表するというのは、簡単なことのようになかなかできないことです。しかもそれが人前でとなると、ますます難しいものになっていきます。十分な練習が必要なことはもちろんですが、自信がなければ声を大きくするこ

とはできないからです。

子ども達が毎月の詩を暗唱にくるときにも明らかです。詩の暗唱は、校長室で1人でしなければなりません。練習が不足していたり、すらすらと暗唱する自信がなかったりすると、子ども達の声は自然と小さくなっています。最初は大きな声で言っていたのがだんだん小さくなっていくと、言い間違いが増えたり忘れていく部分がよく分かるようになります。そういう意味でも子ども達は正直です。だから大きな声で、堂々と発表してほしいと思うのです。

表現の巧拙もあるでしょうが、まずは元気の良い発表だったかどうかを評価したいと、

いつも私は思います。それは子ども達の自信の表れでもあるからです。人前で堂々と発表するためにはそれなりの準備と練習、そして「できる」と自分を信じていなければなりません。子ども達が自信を身につけるといことは、それがどんなことからだとしても素晴らしいことです。

今回の学習発表会も、そんな機会にできればと思います。



5・6年生の練習から

玄関周りをきれいに

昨年の夏からこの1年間、学校はタンク車による給水をしていました。現在は学校のある地域も水道管が埋設され、それによって必要な水が供給されるようになりました。これまでは、花壇や芝生への水やりは全くされておらず、水やりをする余裕も全くありませんでした。

スプリンクラーが定期的な作動するようになり、枯れた草花が放置されていた玄関周りの花壇をきれいにすることにしました。

野上さんを中心に、アシユラフさんはもちろん警備員さんやドライバーさんも手伝ってくれました。

ほとんどほったらかしになっていた玄関周りの花壇ですが、見違えるほどきれいになりました。どんなふう変わったかは次回お知らせします。



花壇をきれいにしています



1・2年生が練習しています

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校

校長
酢谷昌義



3年生以上の英会話発表練習

きに、自分自身の達成感はもちろんですが、周りからの「頑張ったね」「良かったよ」という肯定的な評価を受けることで、本当の力として身につけることができるのだと思います。

子ども達は今、学習発表会に向けて一生懸命練習に励んでいます。きっとその成果を発揮し、素晴らしい発表をしてくれると期待しています。



英語の歌を一人ずつ歌う練習

相手意識と場面意識

学習発表会を通して身につけさせたいことの中に、「相手意識・場面意識」を持たせるといことがあります。これは自信を身につけることと同じように、大変重要なことだと考えています。

元気のいい発表というの、聞く人・見る人を意識するからであり、普段とは違う改まった場での発表になるからです。相手により、また時と場に応じて自分がどうしなければならぬのかを考え行動できるようにすることは、集団で生活する私達にはとても大切なことです。自分が望むことだけでなく、自分に求められている役割をきちんと果たすことも、そこでは必要になってきます。

このように、学習発表会は子ども達にいろいろなものを身につけさせる上で、学校行事の中では最も貴重な機会であると考えます。

普段は誰でも、自分を中心に物事を考え行動しています。しかし自分を離れてものを見

たり考えたりすることを経験しなければ、相手を思いやるということができるようにはなりません。相手を意識し場面を意識することは、そういう自分を離れるということの訓練にもつながると思います。

大きな声で・ゆっくり・はっきり、そして観客の方に身体を向けてなど、練習中の指導はどれもみな相手を意識し、場面を意識させるためのものです。身体の向きだけでも、なかなか言われたとおりにできないものです。繰り返し繰り返し同じことを練習して、子ども達は少しずつできなくなっていきます。

そしてその発表を終えたとき

玄関周りをきれいに②

昨日お知らせしたように、玄関周りの花壇をきれいにしました。これまで枯れた草の中にわずかに緑がのぞいているだけでしたが、見違えるようにきれいになりました。

これからの季節、少しずつ戸外での活動ができるようになります。そのときにきれいな花をつけていたら、子ども達もきっと喜ぶと思います。

学校に来てくださる方々を迎えるためにも、特に環境整備には日頃から気をつけたいと思います。



アラビア語劇の練習です



↑ こんな状態からすっかりきれいになりました。この先が楽しみです。 ↓

